

[長崎市理財部資産経営室からのお知らせです。]

公共施設の将来のあり方を考える市民対話《片淵・長崎・桜馬場中学校区》

第1回 開催報告



ご参加いただいた皆さま
ありがとうございました。



日時 令和元年11月17日(日) 15:00~17:00
場所 男女共同参画推進センター 研修室
参加者 地域の皆さん 32人

人口減少や少子高齢化が進む中であっても、暮らしやすいまちであり続けるために、片淵・長崎・桜馬場中学校区にある公共施設はこれからどうあったら良いのか・・・将来に向けた公共施設のあり方を皆さんと一緒に考えていきたいと思い、市民対話を開催しました。

1 いま起きている“変化”と状況

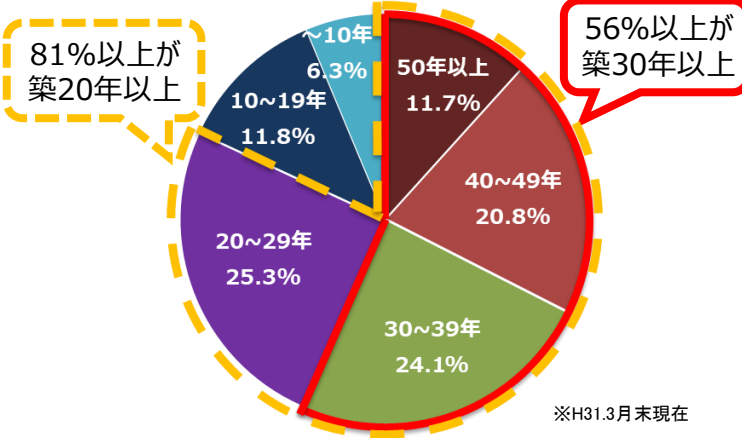
公共施設が古くなってきています

- ・市の公共施設（建物）の半分以上が建築後30年以上が経過し、施設の老朽化が進んでいます。
- ・今後、修理や建替えの時期を一齐に迎えます。

人口減少・少子高齢化が進んでいます

- ・長崎市の人口は、2045年には約31万人にまで減少すると予測され、それに伴い施設の利用者も減少していくことが予想されます。
- ・「働く世代」の人口が大きく減少して**税収が減少することが予想**されます。
- ・今後も高齢化が進み、**福祉や医療にあてる費用が増えることが予想**されます。
- ・このため、**公共施設の修理や建替えにあてる費用は限られてしまいます。**

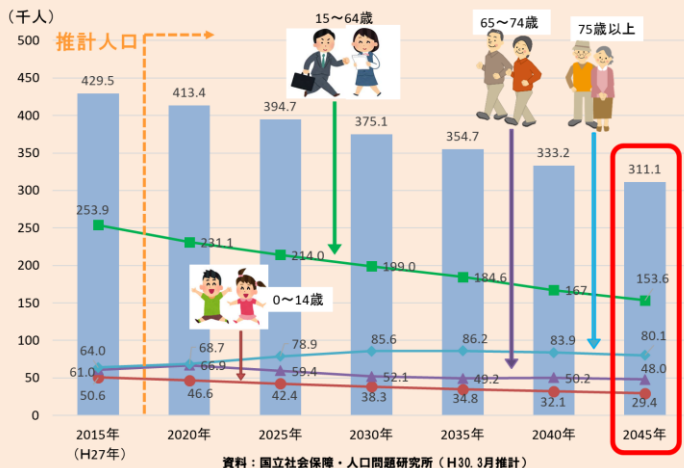
＜施設の築年数と施設の量（床面積）の割合＞



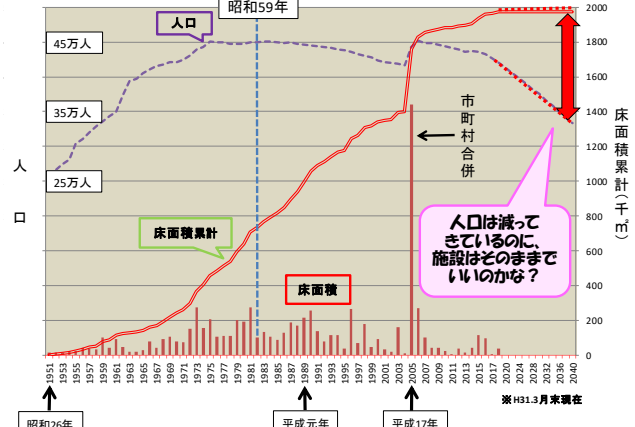
人口は減少しているのに、施設は多いまま

- ・長崎市の人口（紫の線）は、昭和59年をピークに減少していますが、**施設の量**（床面積、赤の線）は増え続けてきました。
- ・**今ある施設を全て持ち続けると、子や孫の世代に大きな負担を残してしまいます。**

＜人口の将来予想＞



＜施設の床面積と人口の移り変わり＞

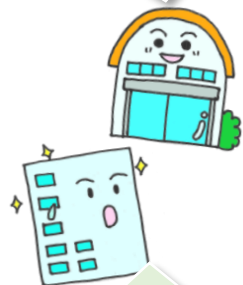


2 時代の変化に対応できる公共施設の見直し

先ほどの内容を整理すると・・・

施設はそのまま維持できるの？

長崎市の人口は、約25年後、約31万人にまで減少すると予測されているんだ。



人口減少

公共施設の
利用者の減少

なのに

公共施設の量は
そのまま

人は減っていくのに、施設の量はそのままだと使われない施設が増えてしまうね。

少子高齢化

医療・介護など福祉
にあてる予算の増大

なのに

古くなった公共施設の
修理に費用がかかる

働く世代の人口が大きく減っていき、税金(市の収入)が減っていくよ。



市の施設の半分以上が、築30年以上で老朽化しているよ。これからますます修理の費用がかかるよ。

どうしたらいいのだろう？

長崎市の公共施設の将来的な「**建て替え**」や「**改修**」にかかる費用平成27年度から**今後30年間**で、不足額は… **879億円**

このままでは
今の施設すべての建替え・修理はできません



ところで…

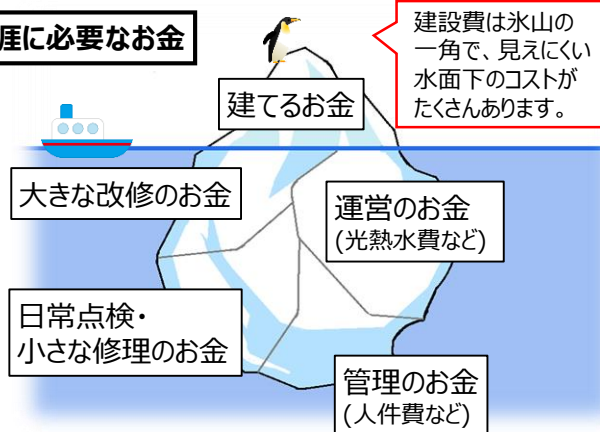
建物の生涯では、どんなお金がかかるかご存知ですか？

建物にかかるお金は、初めに建物を建てるお金だけではありません。建てた後も、建物の管理・運営のための光熱水費や人件費、安全のための日常点検・小さな修理のお金が必要になります。

また、建物の老朽化に伴い、定期的に大きな改修のお金もかかります。一般的に、建物を建てるお金の4～5倍のお金が、建てた後にかかるといわれています。

建物のあり方を考えるときには、**建物の生涯にかかるお金全体を考える必要があります。**

建物の生涯に必要なお金



グループでの話し合い

「区内にある施設の課題や問題点等」、「市の考える施設の基本的な配置に対する意見」について考えよう

○片淵・長崎・桜馬場中学校区の将来を考えるうえで、区内にある施設の課題や問題点等は何ですか。

○市の考える施設の基本的な配置に対して、どう思いますか。思い浮かんだことを書き出してもらい、班で話し合いました。

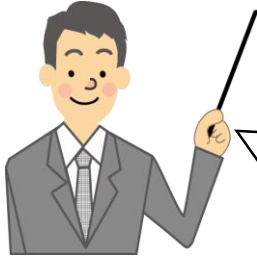


3 公共施設の上手な見直し方

また、どのように公共施設を見直していくかについても、お話ししました。

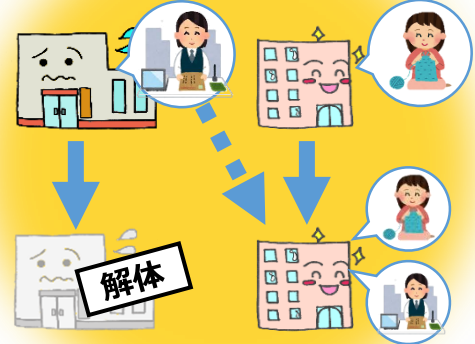
まず大切なことは…

**施設を見直すことは、
行政サービスを無くすことではありません。**



施設の見直しとは、あくまでも施設のあり方や使い方を見直すということです。仮に施設が減っても、そこで行われていた生活に必要なサービスを無くすことではありません。

<工夫した使い方の例>

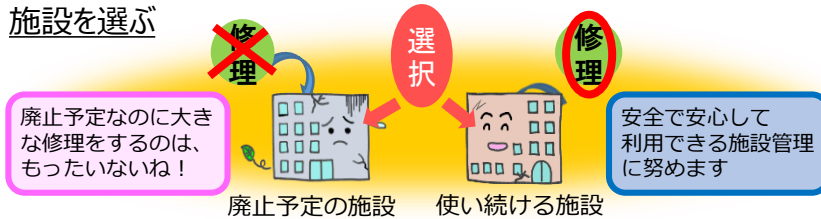


建物は減っても… サービスは残る

見直しの手法

見直しには、大きく2つの手法があります。

手法1 施設を選ぶ



使い続ける施設と将来廃止予定の施設を分けて、使い続ける期間に合わせた適切な修理をします。

手法2 施設をまとめる

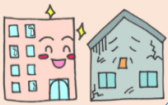


建物が減っても工夫することで活動は続けられ、新たな交流も生まれます。

公共施設を見直す時の視点

公共施設の使い方を見直す時には、次の7つの視点で考えていきます。

建築年数や修理の状況



地震に強い建物か



よく利用されているか



使っていない部屋はないか



同じような使われかたをしている建物がないか



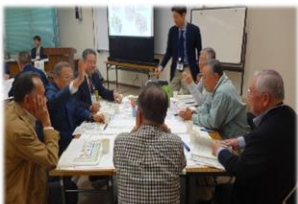
修理などにお金が掛かりすぎていないか



バリアフリーに対応しているか



グループでの話し合いの様子



4 長崎市全体の公共施設の基本的な配置の考え方

スポーツ施設

❁スポーツ施設は、生涯にわたってスポーツに関わることで、長崎市にお住いの皆さんが健康で豊かな生活を送ることができ、また、競技力の向上を図ることで、地元選手が活躍できるよう、その活動の場として、重要な役割を担っています。



●都心部及び都心周辺部には、九州大会や県大会などの大規模な大会に利用するためのスポーツ専用施設を配置する考えです。(例:市民体育館など)



●市内の中央、東部、南部、北部の4つの各地域内において、各地区からの交通の便が良い場所などには、生涯スポーツの推進や競技力の向上のために、スポーツ専用施設として、体育館や庭球場を配置する考えです。(例:諏訪体育館など)



●地域の皆さんの身近なところには、気軽にスポーツに親しむことができる場として、公園機能の一つとして配置されているグラウンドを継続して配置する考えです。
●また、街区公園等の広場、ふれあいセンター等の軽スポーツ室の活用、学校の体育館などの開放を進めています。

市民体育館



外観



競技場



軽スポーツ室

諏訪体育館



外観



柔道場



弓道場

庁舎

❁本庁舎は令和4年に新市庁舎へ。不足している庁舎機能(転入・転出、婚姻、出生など)の拡充、防災拠点として必要な性能、機能を確保しており、7か所に分散している庁舎を集約することで、業務の効率化を図り、市民の皆さんへのサービス向上に繋がります。

【議会棟】

議場、議会事務局



金屋町別館



明治安田生命
長崎興善町ビル(借上)



商工会館別館



桜町第2別館



交通会館別館



職員会館



本庁舎・中央総合事務所



メルカつきまち
(消費者センター)

新市庁舎
・市民の利便性の向上
・業務効率性の向上

❁当面は現在の施設で行政サービスを継続する考えです。

4 長崎市全体の公共施設の基本的な配置の考え方（つづき）

市民活動等施設



市民活動センター
(ランタナ)



男女共同参画推進センター
(アマランス)

❖市民活動センターは、さまざまな分野の市民活動やボランティアを行うための拠点施設です。
❖男女共同参画推進センターは、男女共同参画の推進のために必要な事業を行うための施設です。それぞれに拠点が必要ですので、交通の利便性の高い市内中心部に配置しています。

子育て関連施設



上長崎地区子育て支援センター
「もりのクレヨン」

❖長崎市にお住まいの保護者の皆さんが、子育て中に感じられる、孤独感や不安感の軽減を図ることを目的に、気軽に集まって、相談や交流等が出来る場所として、長崎市では子育て支援センターの設置を進めています。
(長崎市子ども・子育て支援事業計画)に基づいて、市内16区域に子育て支援センターを設置する考えです。

市営住宅



本河内住宅

❖今後、人口や世帯数が減少し、市営住宅の需要は減ると予想されます。そのため、市営住宅は皆さんの最低限の安全な暮らしを守る役割を担いながら、将来的には市全体の市営住宅の総戸数を減らしていく方針です。

保健施設



夜間急患センター

❖医療の空白時間帯である夜間や年末年始の診療サービスなど、長崎市にお住いの皆さんの健康を維持する必要がありますので、市内中心部に1か所配置しています。

図書館



市立図書館

❖市立図書館と長崎市の各地区のコミュニティ施設等の図書室は、ネットワークで繋がれており、希望の場所で本の受取りや返却が可能です。また、長崎市にお住いの皆さんが身近な場所で図書館サービスを利用できる体制が整っていますので、その中核となる市立図書館は市内に1か所配置する考えです。

ホール型施設

❖ホール型施設は、長崎市にお住いの皆さんが利用する施設として、公共交通機関の便が良く、市内全域から利用しやすい場所に配置しています。



市民会館文化ホール



市民生活プラザホール(借上)

グループでの話し合いの様子



4 長崎市全体の公共施設の基本的な配置の考え方（つづき）

消防施設



中央消防署



中央消防署
蛍茶屋出張所

🌸 消防体制の見直しを図りながら、効率的な適正配置により、将来にわたり長崎市にお住いの皆さんが安全安心に暮らせるように、サービスの提供を行っていくこととしています。

学校施設

学校の適正配置については、教育委員会が地域と協議させていただいています。



伊良林小学校



上長崎小学校



諏訪小学校



桜町小学校



西坂小学校



片淵中学校



長崎中学校



桜馬場中学校

公園施設



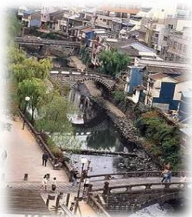
金比羅公園
(総合公園)

🌸 公園には、「防災や避難等災害に対応できる機能の確保」、「複合遊具等を活用した魅力的な子どもの遊び場の創出」、「スポーツ施設等での利用」、「健康づくりのための機能の導入」など、さまざまな要求・要望への対応が求められています。

🌸 市内における都市公園の市民1人当たりの標準面積は10平方メートル以上、市街地の市民1人当たりの標準面積は5平方メートル以上とし、都市公園の種類や目的及び誘致距離を勘案し、配置の均衡を図ります。



立山公園
(地区公園)



中島川公園
(近隣公園)



魚の町公園
(近隣公園)



風頭公園
(近隣公園)

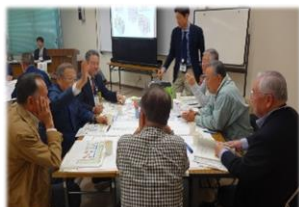


片淵近隣公園
(近隣公園)



奥山運動公園
(近隣公園)

グループでの話し合いの様子



4 長崎市全体の公共施設の基本的な配置の考え方（つづき）

コミュニティ活動施設



●地域の皆さんが身近にふれあい、さまざまな活動を行っていく場所として、気軽に立ち寄ることができる地域コミュニティ活動の場はこれからも必要です。
 ●今後は、ふれあいセンターや地区公民館などに加え、特定の年齢層を利用対象とした老人憩の家や児童館・児童センターなどの施設も、将来的に、多世代が利用できる施設へ利用方法や機能を見直し、身近な場所で、地域の子どもから高齢者までの多世代が活動する場を維持していきます。



中央公民館



桜馬場地区ふれあいセンター



上長崎地区ふれあいセンター



老人憩の家さくら荘



●市域全体から利用される施設は、交通の便の良い都心部及び都心周辺部への配置を考えています。



●中学校区を超えた大規模な催しや講座等に対応できる広いスペースや、ホールなど特定の設備が必要な広域的に利用できる施設は、長崎市の都市計画上の地域拠点または交通の便の良い場所への配置を考えています。



●多数の参加が見込まれる活動や行事などのため、小学校区の施設よりも広いスペースや調理室などの特定の設備が必要な施設については、小学校区に配置する施設を兼ねる形で、概ね中学校区への配置を考えています。



●地域の皆さんが最も身近な場所で、地域の話合いなど、さまざまな地域活動に利用する地域コミュニティの活動拠点は、概ね小学校区の範囲への配置を考えています。

中学校区

小学校区

- 集会室
- 和室
- 給湯室

…等



- 集会室
- 会議室
- 和室
- 調理室
- 事務室兼図書室
- …等



グループでの話し合いの様子



5 グループでの話し合いで出された主なご意見

グループで話し合っていたいただいた内容について、班ごとに発表していただきました。

- ・市民体育館の下に市民文化ホールがあるため、コンサート等がある時には、軽スポーツでしか使用できない。体育館施設の複合化は良くない。
- ・公共が建設した施設の上に、民間のマンションを複合化するような官民連携事業を検討してみてもどうか。
- ・施設の維持管理にかかるコストだけを見るのではなく、収支を見ながら、施設の見直しを検討すべき。

1班



- ・まずは、ネットワークを作り、その上で、普段からネットワークで意見交換や情報交換をしていくことが大切ではないかと思う。

2班

- ・自治会所有の集会所や公民館に図書機能を入れることができれば、もっと使いやすくなると思う。
- ・この地区は坂が多く、避難所含め公共施設まで行くことが大変なため、利用しやすくなる方法として巡回バスがあれば良いと思う。

3班



- ・施設の複合化や統合を進めるべき。例えば、小中学校の体育館やプール、特別教室は1校につき1つずつ設置してあるが、児童が少ないのにもったいない。小中学校や地域で共用できれば良いと思う。
- ・利用者の少ない施設の閉鎖や機能の集約化を行うなどして、赤字を減らす努力が必要。

4班

- ・そもそも公共施設は使いやすく分かりやすく周知する必要があるのではないか。
- ・西坂小学校区には公共施設のコミュニティ施設がないため、施設を造ることと合わせて、コミュニティバスなどの交通手段も検討すべきだと思う。

5班



- ・公共施設マネジメントの地区割が解りにくいと思うので、片淵・長崎・桜馬場中学校区とすれば良いと思う。
- ・片淵中学校区には避難所が3か所しかないため、有事の際には住民が入りきれないため、もっと身近な場所に避難所ができるような考えを示してほしい。

6班

【講評】（アドバイザー：首都大学東京 都市環境学部 讀岐亮 先生）

- 今回の市民対話では、意外と【公共施設を知らない】という共通理解が得られたのかもしれないが、他の地区と違い、グループの数だけ、あるいは人の数だけ意見が出たように感じました。
- 多様な主体がある中で、これからの時代、マネジメントを進めていく上では市民理解だけではなく、市民の皆さんと一緒に進めていくという志を共有することがすごく大事だと思いました。



次回の対話では…

第1回目につき、長崎市から **個別の公共施設の配置の考え方** をお示したうえで、その考え方に対して、地域にお住まいだからこその実情などを踏まえた、ご意見やアイデア等をお聞かせいただきたいと思っております。

第2回 日時：令和元年12月15日（日）19：00～21：00
場所：男女共同参画推進センター 研修室

◆お問い合わせ：長崎市理財部資産経営室（☎直通：095-829-1412）